

学校だより



〈平成29年7月3日発行〉

【教育目標】

- 自分で考え 行動する子
- ◎ 心豊かで 思いやりのある子
- 体をきたえ 元気な子

『一人一人が輝き、共に生きる力』を培う教育活動の推進

明治3年3月3日創立

立川市立第一小学校

校長 對馬 洋

〒190-0023 立川市柴崎町2丁目20番3号

TEL 042-523-4428~9

042-522-2114 (青空学級)

FAX 042-529-0840

URL <http://www.tachikawa.ed.jp/es01>

68918 と 53580

校長 對馬 洋

この数字は、先日実施した、6年生の日光移動教室と、5年生の八ヶ岳自然教室で私が歩いた歩数です。日光が68,918歩で、八ヶ岳自然教室が53,580歩。私の正直な印象としては、「え、これだけ？」という感じです。感覚的にはもっと歩いた気になっていたのですが…。ほとんどが山道だったので、歩数以上に「歩いた感」があったのかもしれないね。

本校の日光移動教室では、1日目に赤沼から湯ノ湖畔まで登り、2日目は湯ノ湖から小田代ヶ原を經由して竜頭の滝まで下るとい、戦場ヶ原全体をほぼ往復するハイキングを行っています。八ヶ岳自然教室では、学校寮地区から清里まで下り、飯盛山登山の後、JR最高地点を經由して宿舎に戻るコースを歩きます。どちらも、思いっきりハイキングを満喫できる設定だと思います。なお、移動教室の様子は、本校のホームページでも紹介していますので、どうぞご覧ください。

生活力(自立の基礎)を試す

集団生活では、子ども達の生活力がよくわかります。自分の持ち物や着替えなどの整理整頓、食事のマナー、風呂の使い方、トイレのスリッパの始末、あいさつ、その他様々な周囲への気配りなど、日頃身に付いていないことを急にやろうとしても無理な話。うまくできずに苦労している子どもを見ると、ちょっと気の毒にもなります。もちろん、その場で指導しますが、知識として覚えるだけではすぐに忘れてしまいます。生活化するには、根気強く指導を続けていくしかありません。各家庭のご協力が必要です。

集団生活の「不自由さ」から学ぶ

集団生活では、やりたいときにやりたいことができな

い不自由さを味わうことになります。しかも、行動計画に沿いながらも、さらに「5分前行動」ができるように常に気を配らなければなりません。

また、同室の友達とは、互いの心理的なテリトリーを邪魔しない程度に親密に付き合うことが求められます。心理的な距離感はゴムひもに例えられます。多少の融通はきくものの、気を抜くとたるんでしまい、強く引き過ぎると切れてしまう(しかも切れたゴムが飛んできて、痛いしっぺ返しもある)。一人一人異なる「心地よく感じられる(心理的な)距離感」を、互いにうまく調整できないと、仲良く、気持ちよく、一緒に生活することはできません。

疲れたときこそがんばりどころ

身体が疲れると心も疲れます。私は、疲れがたまってくる2日目の夜から3日目勝負どころと見ています。トラブルが起きるのも大体このあたりです。

それまで我慢していたのに、ついわがままな行動が出てしまう。一方、それまではあまり気にならなかった友達の多少のわがままが、急に許せなくなる。「私だって我慢しているのに、何よ!」という具合です。

私は、3日目の朝会では、「2日目までに学んだことを最後まで続けて、はじめて本当の自分の力になります。」と話しています。

楽しく素敵な思い出ができる宿泊行事は、子どもの自立を促すよい機会でもあります。しおり作りや各係分担、会の司会進行など、子ども達が主体的に関わる場面をできるだけ多く設けています。これからも、子ども達の実態を考慮しながら、子どもが大きく育つ宿泊行事を工夫していきたいと思います。